

体操競技ワールドカップ(東京大会が、六月一日から四日まで代々木競技場第一体育館に特設会場を設けて行なわれた。

このワールドカップとはオリンピック競技大会、世界選手権大会とならぶ、FIG(国際体操連盟)のビッグイベントの一つであり、今回で4回目をむかえる(一九七五年ロンドン、一九七七年オピエド、一九七八年サンパウロ)。一九七七年ローマで開かれた第五回FIG代表総会で日本開催が決定された。この大会は財団法人日本体操協会の五十周年記念事業の一つである。

今大会の出場選手は前年の世界選手権出場者の中から左記の事項に該当する者が選ばれた。

(1)団体総合第一位から六位までの人賞国から三名

(2)個人総合の六位までの入賞者
(3)種目別優勝者(第十九回世界選手権大会記録を参考)

の中から選ばれ、東京大会には男子十八名、女子十八名の計三十六名に、開催国日本から女子二名が加わり、合計三十八名の出場が予定されていた。

しかし、アンドリアノフ(前年世界選手権個人総合優勝)、清水(同跳馬優勝)、ムヒナ(同女子個

人総合優勝)が、体調不良やケガにより参加しなかったが、男子は

デイティアティン、アザリアン(ソ)、ギンガー(西独)、ベルテ

ル(東独)、トーマス(米)、監物、笠松、梶山(日)、その他ハ

ンガリー、ルーマニア、ブルガリアの各選手計十九名が出場した。



体操競技ワールドカップ

'79東京大会開かる!

(代々木第一体育館)

のままの素晴らしい演技が行なわれた。

一日は開会式に先立ち、二時より男女の公式練習が行なわれた。

入場無料(整理券発行)というこ

ともあり、開場前から熱心なファンが列をつくり、約五千人の入場者

者は公式練習に見とれ、本番さながらの演技には盛んな拍手を浴び

せていた。特にこの大会ではコマ

ネチの人氣が高く、練習時でも演

たり、コマネチ人氣と世界一流の技が観戦できるとあって前売で八

割がたの売行きであった。大会三日間の当日売りは数が少ないた

め、朝早くから列ができるほどの人氣であった。静岡から来たが当日売りも買えず、引き上げる人も

いた。三日間とも入場者は一万人を越え、第一体育館は満員の盛況となり、事務局は思わぬ誤算に顔をほころばせていた。

が設けられた。フロアーより八〇センチ高い舞

台は、一〇〇〇㎡(約三〇〇坪)

の床面積があり、設営のために使用する資材は大型トラックにして

8台分。五月二十九日から三日間、計三十六時間、延人数三〇〇人で行なってしまった。これを恒久的な体育館と同じ状態に仕上げるには約一ヶ月かかるといわれている

ものである。又この中で最も精度が要求されるのが床のたわみである。80キロの人間が一メートルの

台の上から飛び降りて、2.5mmのたわみが出るように組み立てなければならない。そのため、床の下に一六〇〇本の柱が使用された。

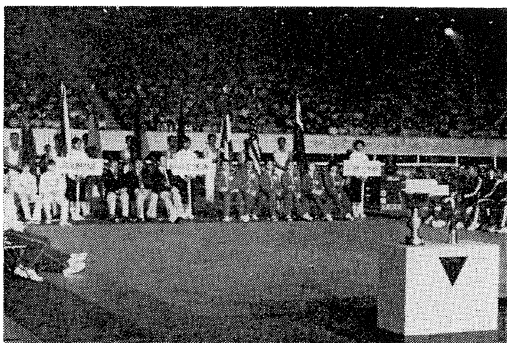
このように第一体育館もバレーボールワールドカップ、サントリ

ーカップテニスと種々の競技が行なわれてきている。広いフロアー

を利用して室内施設として陸上競技までも開ける施設と、これから

総合体育館的な利用の道が開かれると思う。

須川育春(第二業務部業務課)



女子はキム(ソ)、コマネチ、エベルレ(ルーマニア)、チエルナ(チェコ)、ジョンソン(米)、それに加納、野沢の日本、ハンガリー、東ドイツ選手の十六名の計三十五名が出場し、争われた。

このメンバーを見ても、本大会がいかにハイレベルの大会である

かがわかっていただけたと思う。

大会関係者は五、六千人入れば良

い方との見方をしていたが、テレビ放映などを通じて宣伝が行きわ

であった。

今大会の打合せ時においては、

この特設会場は夏冬それぞれプール、アイススケート場として利用されているが、今は端境期という中間期間であるため、プール上に作られた板張りの上に競技施設